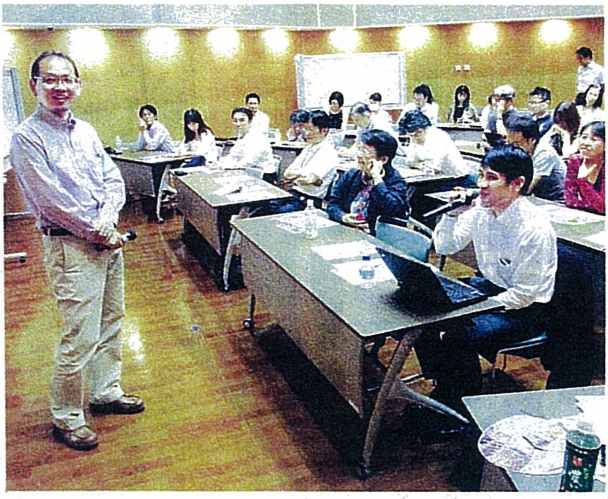
No.1663 教育ルネサンス 学ぶ社会人 4

図書館でビジネス講座

9月12日の夜7時。東京都千代田区の日比谷図書文化館の小ホールは、仕事帰りの会社員らでほぼ満席だった。仕事に役立つ問題解決法の講座「ビジネスマンのためのイノベーティブ・デザイン思考法」が開かれていたのだ。

講師を務めるのは、慶応大学の教員たち。自由な発想による「デザイン思考」と、精緻な検証に基づく「システム思考」を組み合わせた独自の手法を学ぶ。9～11月の隔週、全6回で、受講料は2万円だ。

40人の定員を上回る約60人が受講。初回のこの日は、同大大学院システムデザイン・マネジメント研究科（横浜市港北区）を率いる前野隆司教授(50)が「日本の閉塞感を打破していこう」と熱く語った。受講者からの質問も相次ぎ、終了は10時近かった。



前野教授（左端）に質問する財満さん（右手前）（12日、東京都千代田区立日比谷図書文化館で）

「仕事に生かせるものを会社に持ち帰り、実践してみたい」と意気込んでいたのは、質問の口火を切ったマーケティング支援会社部長の財満二朗さん(30)。前野教授は「みんな生き生きとした表情で聞いていた」と手応えを感じた様子だった。

同館は昨年11月の開館以来、図書の閲覧、貸し出しだけでなく、「日比谷カレッジ」と称して、講座やセミナーなどを開いてきた。中でも、首都ビジネス街のど真ん中にあることから、働く社会人に対する支援を念頭に、コーチングや英語を学び直すなどの講座に力を入れてきた。

しかし、いつも狙い通りに参加者が集まるとは限らず、企画担当スタッフの稲垣久美子さん(31)らは頭を痛めていた。そうした中、同研究科の非常勤講師と知り合い、ビジネスマンの間でデザイン思考など問題解決の新手法に関心が高まっていることを聞いた。さっそく同研究科に開講を依頼したところ快諾を得た。

稲垣さんは「図書館の中で聞き耳を立てていても、ビジネスの最前線で必要なものがなかなか分からない。慶大に力を貸していただけることになり、ありがたい」と喜ぶ。

一方、前野教授は「研究科のあるキャンパスは都心から離れており、新手法の普及に地の利の悪さを感じていた。願ってもないチャンスだと思った」と振り返る。講座では次回以降、論理的思考法や「プロトタイピング」と呼ばれる方法を、具体的に体験しながら学んでもらうという。

高度な専門知識を求める社会人が、大学と図書館の連携を深めている。

（石塚公康、写真も）

日比谷図書文化館　前身は都立日比谷図書館。東京都から千代田区へ移管され、2011年11月に開館した。図書館としての機能に加え、同区の歴史を紹介する展示室と、講座やセミナーなど生涯学習の場を融合させた総合文化施設。日比谷公園内にある。